

個が生きる劇づくり

— 低学年組「おおかみと7ひきのこやぎ」の実践を通して —

木村 敦子

1. はじめに

本学級では「生活力のある児童」を育成することをねらっている。そのためには学習活動の中に

- ① 児童一人一人の実態に合った表現活動ができる場（表現）
- ② いろいろな人とかかわり合いながら表現活動ができる場（かかわり）
- ③ 自分のしたことを振り返ったり再現したりできる場（評価）

といった場が設定されていることが必要であると考えられる。

そこで、劇づくりの学習では、一人一人の表現する意欲を高め、表現力を伸ばしていけるよう、児童の実態を次のように捉えて学習活動を構成している。

表 現	<input type="checkbox"/> どのように表現できるか。（表現の内容、発達段階、表現の手段） <input type="checkbox"/> どのような表現活動（話す、歌う、身体表現、操作）に興味があるか。 <input type="checkbox"/> 最も表現しやすい方法はどのようなものであるか。
か か わ り	<input type="checkbox"/> 自分のまわりにいる人とどのようにコミュニケーションをもつことができるか。 <input type="checkbox"/> 最も安定した人間関係がもてるのは、誰であるか。
評 価	<input type="checkbox"/> 自分の活動や行動をイメージできるかどうか。 <input type="checkbox"/> 活動や行動をイメージしたり、振り返るための手がかりとなるものは何であるか。 <input type="checkbox"/> どのように活動を振り返ることができるか。（話す、書く、描く、再現する。）

2. 指導事例「おおかみと7ひきのこやぎ」

(1) 題材について

本題材は、総合学習「クリスマス会」（平成3年度研究紀要参照）の中の学習活動として展開した。劇の題材を選択するにあたっては、

- ① 児童一人一人がそれぞれの段階に応じて理解しやすい内容であること
- ② 児童の興味・関心のもてる活動が設定できること
- ③ 児童の個性を生かせる配役ができること
- ④ なるべく観る側も内容を知っていること

といった4つの観点から考えた。題材「おおかみと7ひきのこやぎ」は、本学級で行っている「おはなし（合同国語）」の時間にもとりあげ、劇づくりにはいる前に親しんでいた物語である。本題材では、児童が楽しみながら活動でき、児童相互のかかわりが持てるよう配慮し、児童の実態に合わせて、内容を変更して扱った。（図-1）

(2) 児童の実態

本題材の内容に関する児童の実態と課題は次のようである。

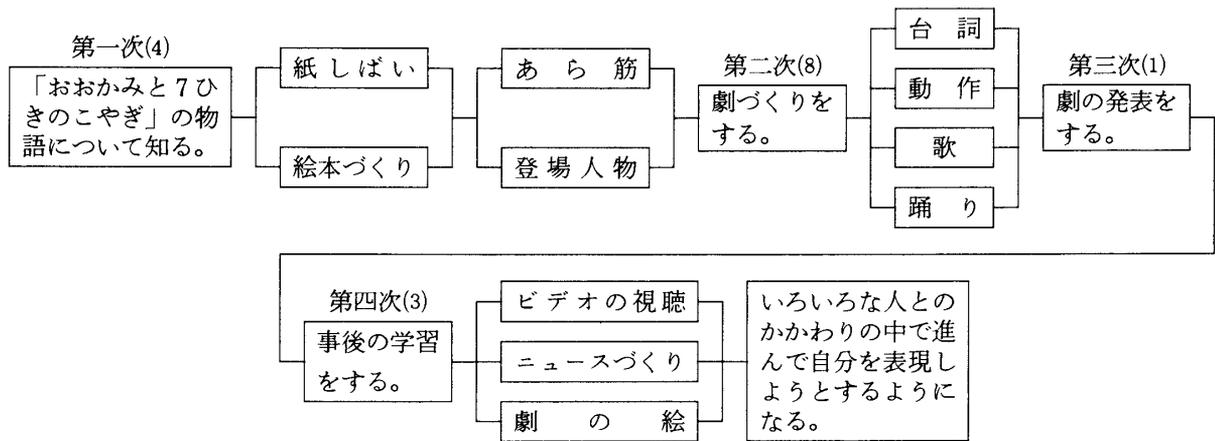
表-1 児童の実態と課題

児童	実 現 態			課 題	
	理 解	表 現	か か わ り		
①	登場人物の名前がわかる。動作をあらわすことができる。	指さしをしたり、動作で要求を表わすことができる。	友達の動きを見て、自分の動きがわかる。自分の方からかかわっていくこともある。	時計の数字を見たり、文字を書くことに興味をもっている。	自分の役がわかり、友達とのかかわりの中で演技することができる。
②	登場人物の名前がわかる。大まかな場面のあら筋がわかる。	自分のしたことやできごとについて文で表現することができる。	学級全員の友達に関心をもっている。児③と一緒にだと、安定して活動できる。	自転車や車が好き。商品についている会社のマークに興味をもっている。テレビの主題歌をよく歌う。	自分の役がわかり、友達とのかかわりながら演技することができる。
③	登場人物の名前がわかる。あら筋や場面の情況がわかる。	発音は不明瞭であるが、自分のしたことを単語で話すことができる。音楽のリズムにのった表現ができる。	学級全員の友達に関心をもっている。自分からかかわろうとする。	音楽が好きで、いろいろな歌を覚えて歌う。	自分の役と、友達との役がわかり、友達とのかかわりながら演技することができる。
④	登場人物をあら筋にそってあげることができる。場面の情況がわかる。	自分のしたことやできごとについて二語文で話すことができる。情況を動作で表現できる。	上学年であるという意識が強く、下学年の世話をする。児⑤と一緒にだと、活動にはいりやすい。	変身するテレビ番組が好き。「強い」イメージのあるものを好む。	場面をとらえて、友達とのかかわりながら演技することができる。
⑤	絵本や紙しばいを見て、知っている物の名前を言うことができる。	わかったことを、これかからず言うことができる。二語文で要求できる。	学級の友達に関心を持ち始めている。児④のことは意識して一緒に動ける。	変身するテレビ番組が好きで、変身ポーズを鏡の前でしている。	自分の役がわかり、友達とのかかわりの中で演技することができる。
⑥	絵本や紙しばいを見て、知っている物の名前を言うことができる。	二語文で要求を言うことができる。音楽に合わせたリズムうちや身体表現ができる。	動作の模倣など、活動中は、友達の動きを見ている。かかわりは大人が中心である。	音楽が好きで、歌詞のある歌だけでなく、メロディーだけでも覚えて歌う。	自分の役がわかり、友達とのかかわりの中で演技することができる。

(3) 指導目標

- ① 劇の中ですすんで表現しようとする意欲を育てる。
- ② 道具や音楽を手がかりに自分の役割を演じることができるようにさせる。

(4) 指導内容と計画



(5) 指導の実際

① 第一次 物語の学習

本題材では物語の内容を児童が演じやすいように変更しているため、自作の紙芝居と絵本づくりによって内容の学習をすすめていった。絵本は物語の展開にしたがって登場人物を選ぶ、絵の中に貼る、書き込むといった操作をすることによって(写真1)完成できるようにした。また、「とんとんとん」といった擬音と戸をたたく動作、「隠れる」といった言葉と隠れる動作や隠れた状態など、紙芝居や絵本をつくっていく中ででてきた言

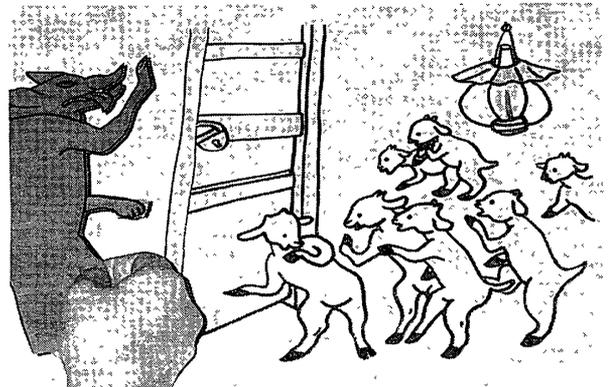


写真1 絵本づくり

葉と実際の動作や状態が結びついていくように動作化も取り入れて行った。

② 第二次 劇化の学習

物語の学習の動作化を次第に多くしていくとき、場面を設定（ドアをはさんで家の中と外）したり小道具を使用して劇化の学習へと移行した。劇づくりをするにあたっては、物語の学習中に物語の筋を理解して児童の方から出てきた言葉、あるいは日常的によく使用し児童が話しやすい言葉をそのまま台詞として取り入れていった。

さらに一人一人の児童が十分に表現できるようにするためには、舞台の大道具、操作をするための小道具、音楽などが重要になってくる。大道具は、おおかみがノック

できるようにカスタネットをとりつけたドア、中をくぐりぬけることができる（隠れることができる）暖炉、後ろに隠れることができる時計、演技の場所がわかるようベンチを置いた。また、それぞれの役になりきって意欲的に表現活動に取り組めるように、帽子（おおかみややぎの耳のついたもの）・衣装など身に着けるもの（写真3参照）、小道具を操作することによって演技ができるように、おかあさんややぎが取りにいった出かける買物かご、こやぎが文字盤を作る未完成の時計（写真2参照）、こやぎがドアにかける鍵、こやぎが配って食べるおやつのはいった皿・コップ、おおかみがのむ大きな薬びんなどを準備した。使用した音楽は、歌うこと踊ることそのものが表現となっていけるもの（「チャチャチャはすばらしい」「ジェットマン」「ぶんてけてって」）、表現の手がかりとなるもの（時計をつくる音楽、買物に出かける音楽、おおかみが登場する音楽、おおかみが化ける音楽）である。

配役は、表-1の児童の実態（興味・関心、対人関係など）に基づいて決定した。児童の役および活動内容については、表-2に示すものである。

③ 第三・四次 発表と活動の振り返り

「クリスマス会」では、家族や他学級の児童の前で劇の発表を行った。劇の発表は、写真撮影したり、ビデオで録画して児童が自分の活動を振り返るための資料とした。活動の振り返りとしてはビデオを視聴しながらもう一度劇を再現する、写真ニュースを書く（ビデオや写真を手がかりにしていたことを話す）、絵に描く（ビデオを視聴して描く）といったことを行った。表-3は児童の振り返った内容である。

場面	一	二	三	四	
あら筋	こやぎたちが楽しく歌ったりおやつを食べていました。おかあさんやぎは、買物に出かけました。こわいおおかみがきてはいけないうのでドアに鍵をかけました。	おおかみやぎがやってきて、ノックをしました。しわがれ声だったのでこやぎたちは、ドアをあけません。おおかみは薬を飲んで声をきいにしました。でも、足がおおかみの足でした。おおかみは、足に粉をつけて、おかあさんやぎにばけました。	こやぎたちは、おかあさんやぎだと思い、ドアをあけました。おおかみはいってききました。こやぎたちは、隠れましたが、次々に見つかってつかまえられてしまいました。	おかあさんやぎが帰ってみるこやぎたちがいけません。泣いていると、小さいこやぎが時計の中から出てきました。	おかあさんの家では、おおかみやこやぎたちに「遊ぼう。」と言っています。おおかみやこやぎたちは「一緒に歌ったり踊ったりして、いました。」
			おかあさんやぎと小さいやぎは、こやぎたちをさがしにおおかみの家まで行くことにしました。	こやぎたちをとりかえしました。こやぎがやってきて、こやぎは本当は、みんなと仲よくしたかったのです。おおかみはあやまり、みんなと歌って踊りました。	

図-1 物語のあら筋

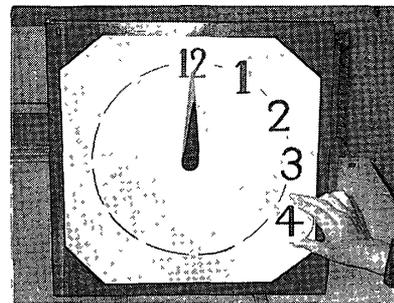


写真2 操作できる小道具



写真3 劇づくり

表-2 児童の活動

児童	配役	表現のための手だて	児童の活動
①	こやぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○操作をすることによって演技ができるように未完成の時計，ドアにかける鍵を準備した。 ○隠れる場所は中をくぐる事ができる暖炉を準備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時計を操作したり，鍵を操作する順序が分かり，演技の中で操作することができた。 ○自分の動く位置が分かり，隠れることができた。 ○演技をする時に，マイクに向かって声を出してから動作をすることができた。 ○他の児童の動きが分かり，児⑥の動きを援助することができた。 ○劇の中の歌が分かり，歌に合わせて部分的に身体表現をすることができた。
②	ちいやぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○児童③と一緒に活動できる配役にした。 ○日常で使っている言葉を台詞にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○劇の流れが分かり，自分から隠れたり，隠れた場所から出てくる事ができた。 ○「エーン，エーン，おおかみきたよ。」「あちよ。」といった台詞を，自発的に言うことができた。 ○児③と一緒に舞台を動くことができた。 ○劇の中の歌を覚えて歌うことができた。
③	おかあさんやぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の変化で動作の変化ができるような音楽の選択をした。 ○日常で使っている言葉を台詞にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の変化で自分の動きが分かり，買物に出かけたり，買物から戻ってくる事ができた。 ○「じょうず。」「いない。」など，劇の流れが分かり，台詞を言うことができた。 ○他の児童の動きが分かり，動きを見て次の自分の動作や台詞を言うことができた。 ○劇の中の歌や踊りを覚えて歌ったり踊ったりできた。
④	おおかみ	<ul style="list-style-type: none"> ○演技の変化（おかあさんに化ける）をつけるための葉びん，足カバーを準備した。 ○身体表現を促す音楽を使用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語を聞いて，おおかみかどのような動作をするのかを即興で表現することができた。 ○「くすり，ペっにがっ。」といった劇の流れにそった台詞を自分で考えて言うことができた。 ○劇の中の歌を覚え，即興的に身体表現することができた。
⑤	おおかみ	<ul style="list-style-type: none"> ○動作を促すために，ドアにカスタネットを取りつけたり葉びんを準備した。 ○身体表現ができやすいよう，「ジェットマン」の音楽を利用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタネットを打つことで，ドアを疾くすることが分かり，自分から動くことができた。 ○「おくすり，ごくごくごく。」といった台詞を自分が薬を飲む動作に合わせて言うことができた。 ○劇の中の歌に合わせて即興的に身体表現することができた。
⑥	こやぎ	<ul style="list-style-type: none"> ○歌や手拍子による表現ができやすいよう，「チャチャチャはすばらしい」を選択し，一人で歌う場面を設定した。 ○動作や言葉を促すよう，みんなに配るお菓子を準備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物をもって来る，お菓子を配るといった自分の動きが分かかって劇の中で動くことができた。 ○「いただきます。」といった台詞を言うことができた。 ○劇の中の歌を覚えて歌ったり，手拍子を入れることができた。他の児童の動きを見て，同じように踊ろうとした。

表-3 活動の振り返り

児童	振 り 返 っ た 内 容
①	<p>○ビデオ視聴による再現では、踊りのところになると手をあげたり、身体でリズムをとった。</p> <p>○写真ニュースでは、写真を見て自分を指さした。</p> <p>○劇の絵は、自分の役であるこやぎと自分の操作した時計を描いた。</p>
②	<p>○ビデオ視聴による再現では、台詞を言ったり、歌を歌った。劇で使った音楽を聴いて小道具を出してきたり、「○○ちゃんが持つよ。」と言って他児の使った小道具を言った。</p> <p>○写真ニュースでは、写真を見て自分の台詞を言いながらしたことを話した。</p> <p>○劇の絵は、「おおかみきたよ。」と場面の話をしながら絵を描いた。</p>
③	<p>○ビデオ視聴による再現では、台詞を言ったり、歌を歌った。自分が出て来る場面になると「おおかさん。」と自分のした役を言った。</p> <p>○写真ニュースでは、写真を見て自分を指さしたり、友達の名前を言って指さしたりした。</p> <p>○劇の絵は、「○○ちゃんと」と友達を指さしては、絵を描いていった。</p>
④	<p>○ビデオ視聴による再現では、台詞を言ったり、歌を歌ったり、動作化した。次の場面では誰がどのようにするかを言いながら視聴した。</p> <p>○写真ニュースでは、写真を見て自分のしていることを話した。</p> <p>○劇の絵は、「おおかみ」「つよい」と話したり、動作化しながら自分が演じるときにイメージしていたおおかみの顔を描いた。</p>
⑤	<p>○ビデオ視聴による再現では、自分の歌う場面を見て、動作化したり、踊りの場面で一緒に踊った。</p> <p>○写真ニュースでは、自分の写っている写真、友達の写っている写真がわかった。指導者の問いかけに自分を指さしながら「ジェットマン」と答えた。</p> <p>○劇の絵は、自分が着た劇の衣装の色で画面一面に描いた。</p>
⑥	<p>○ビデオ視聴による再現では、自分の歌う場面や踊る場面では、一緒に歌ったりメロディーを口ずさんだりした。</p> <p>○写真ニュースでは、自分の写っている写真がわかった。指導者が「～したね。」と写真に写っていることやビデオを見ながら話しかけた。</p> <p>○劇の絵は、指導者が側で「～したね。」と話かけたり、一緒に劇の歌を歌いながら描いた。</p>

3. 考察

「個が生きる授業」であったかということについて次の点から考察していく。

(1) 児童一人一人の実態にあった表現活動ができる場があったか

劇づくりの学習において、それぞれの児童の言葉での表現を十分に生かしていくこと、言葉以外の表現を劇の中に位置づけていくことが大切であると思われる。物語の学習で引き出された児童④の「くすり、ぺっがいがい。」や児童⑤の「おくすり、ごくごくごく」など、自分の経験からの台詞はそのまま生かした。このことは、劇化の学習において、台詞を言いながらの身体表現へとつながっていった。児童②は、「隠れる」「泣く」といった言葉と状況を理解し、状況に応じた言葉を台詞として出すことができた。言語表現のできにくい児童①は、物を操作することによって演技するようになった。物を動きの手がかりとすることによって、マイクに向かって発声したりリズム的な音楽で身体を動かすなど劇の学習の中に自発的にはいっていきることができた。このことから、劇づくりの第一段階として日常性を劇の中に取り入れていくことが重要であると考えられる。

さらに言葉だけの表現が不十分である段階では、表現活動に音楽を多く用いた。児童⑥は一人で歌ったり、他児が歌うのに手拍子をつけたりした。児童②④⑤は好きな音楽がかかることを楽しみにして劇の活動に取り組むことができた。児童③④⑤は、自分で踊りをつくり表現していくことができた。使用する音楽は、児童が好むもの、表現しやすいもの、劇の流れに即したものといった観点で選択してきた。児童の表現を伸ばすといった観点からみると、この音楽でどのような表現が可能となるかといったねらいをしぼった選択も必要であると思われる。

(2) いろいろな人とかかわり合いながら表現活動ができる場があったか

劇の配役は、表現のしやすさといった点と、児童相互の対人関係を考慮して決定した。児童①が児童⑥の演技を援助する、児童②が児童③と一緒に、指導者の援助なしで演技できる、児童④が児童⑤と一緒に出ることで、積極的に舞台上上がることができる、といったことが見られた。児童の実態から言葉を介在としたやりとりはほとんど設定せず、物を介在としたやりとりや一緒に活動して模倣できる場を設定した。劇づくりの学習の中では「〇〇ちゃんがしたら自分が～する。」といった意識で他児の演技を見ることができるようになってきた。この点からも配役という役割分担のある劇をすることによって、自分にかかわる児童への意識を持つことができたものと思われる。

(3) 自分のしたことを振り返ったり再現したりできる場があったか

活動の振り返りができるためには、自分の活動や行動をどれだけイメージできるかということにかかわっている。本題材での振り返りの場では、具体的なイメージを持ちやすいようにビデオ視聴を繰り返し行った。そこでは、ビデオを見ながら自分の姿を見つけることができる、次の場面を予測して台詞を言ったり歌ったりできる、使った道具を持ち出して動作化して再現するといったことが見られた。ビデオ視聴後に行った写真ニュースを書く、絵を描く活動においても具体的なイメージを持つことができた。これは、児童にとって動いている映像や音楽が自分の活動を振り返るための有効な手がかりとなっていたと言える。

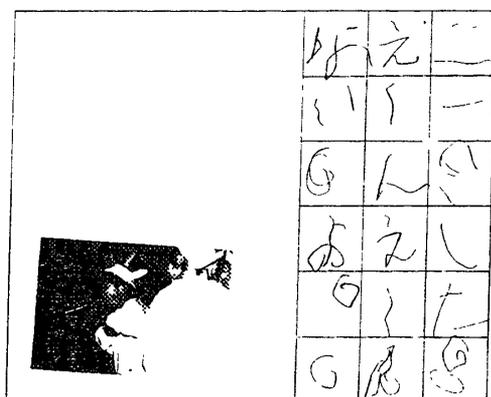


図-2 写真ニュース



写真4 劇の絵